

大垣養老高校の水田でゼライクル液を施肥した



ゼラチンの残りかすを肥料に

中日本カプセル、大垣養老高と実証実験

【西濃】健康食品やサプリメントの受託製造を手掛ける中日本カプセル（本社大垣市）は、岐阜県立大垣養老高校（岐阜県養老町）の水田で、稲作栽培の実証実験を実施した。ソフトカプセルの製造工程で発生するゼラチンの残りかす（ゼラチンネット）を活用した肥料「ゼライクル液」を施肥し、肥料としての効果を検証する。

ゼライクルはゼラチンとリサイクルによる造語。実証実験で使用する肥料は、ゼラチンネットに含まれる窒素成分を再利用して生産された。中日本カプセルでは、廃棄物としてゼラチンネットが年間200ト以上発生している。2019年から再利用を進め、23年は約7割のゼラチンネットを再利用

した。大垣養老高校との実証実験は23年4月から開始。昨年はゼライクル液の効果として、収穫時のくず米の減少や、カメムシなど虫害の予防が確認された。今回は肥料を増加し、コシヒカリとハツシモの2種類を栽培

する。9月ごろの収穫を見込む。プロジェクトを統括する兒玉書教諭は「ゼライクル液は化成肥料の代わりとなるほか、機械がなくても流し込みで施肥できる。環境にも経済的にも優れる」と話した。